

2009/11/02

日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航費助成金」  
3<sup>rd</sup> AP-NMR Symposium 参加報告書

横浜市立大学生命ナノシステム科学研究科

特任助教 古川 亜矢子

2009年10月25日から10月28日の間、日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航助成金」の助成金で、韓国の済州島で開催された第3回Asia-Pacific NMR Symposiumに参加させて頂きました。済州島は、気候もよく自然にも恵まれ、食事大変美味しい、時間の流れがゆったりとした良い場所でした。アジアと環太平洋諸国のNMR研究者が集まる学会でしたが、参加人数は200人程度であったので、多くの方々と話すことができました。講演では多くの著名な先生の最新の研究成果を直接聞くことができ、たくさんの情報収集をすることができました。現在、抱えている問題を解決できそうな情報も、得ることができました。

私は、”Structure, interaction and real-time monitoring of the enzymatic reaction of APOBEC3G which possesses anti-HIV activity”という題目で、ポスター発表を行いました。シトシンをウラシルへと変換するデアミネーション活性によってHIVの複製を阻害する宿主因子であるAPOBEC3Gタンパク質の構造及び標的DNAであるssDNAとの相互作用の解析結果について、報告してきました。具体的には、APOBEC3Gのデアミネーション反応をNMRを用いてreal-timeにモニターする方法と、その方法を用いて明らかにした詳細なHIV阻害機構について発表してきました。多くの先生に、自分の研究に興味を持っていただき、更に多くのディスカッションを交わしていただけたことは、これからも研究を追求していく上で、大きな励みになりました。本学会への参加を通して得た経験を活かし、研究をより一層発展させていきたいと考えています。

最後に、学会の参加支援をして下さった故京極好正名誉教授、故阿久津政明氏、ご家族の皆様、そして日本核磁気共鳴学会関係者の方々に、深く感謝致します。